

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	子どもの体験学習・探究学習を推進できる教師の育成プログラムの開発：総合的な学習の時間を中心にして
Author(s)	渡邊, 巧; 米沢, 崇; 永田, 忠道; 山崎, 茜
Citation	広島大学教育学部共同研究プロジェクト報告書, 21 : 55 - 60
Issue Date	2023-03-17
DOI	
Self DOI	<a href="https://doi.org/10.15027/53599">10.15027/53599</a>
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053599">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053599</a>
Right	
Relation	



# 子どもの体験学習・探究学習を推進できる教師の育成

## プログラムの開発

－総合的な学習の時間を中心にして－

研究代表者 渡邊 巧 (カリキュラム開発)  
研究分担者 米沢 崇 (学習開発学)  
永田 忠道 (教職開発)  
山崎 茜 (教職開発)

### I 研究の背景と目的

予測困難な社会の中で、次世代の社会の担い手である子どもを学校教育で育成していくことが求められている。こうした文脈で、Project based learning (PBL) や Inquiry based learning (IBL) によって、子どもたちの資質・能力を高めていくことが国際的な潮流である。日本の学校教育では、総合的な学習の時間が 1998 年に新設され、体験学習 (PBL) や探究学習 (IBL) の中心となっており、STEAM 教育や SDGs の牽引役としても注目を集めている。しかしながら、総合的な学習の時間 (小学校・中学校)・総合的な探究の時間 (高等学校) をはじめとした、子どもの体験学習・探究学習を促進できる教師の育成に向けた研究の蓄積は乏しく、教師教育の実態も明らかにされていない。

2022 年度広島大学教育学部共同研究プロジェクト「子どもの体験学習・探究学習を推進できる教師の育成プログラムの開発」では、小学校の「総合的な学習の時間」を中心に、実践研究 (米沢・渡邊) とスクーピングレビュー (渡邊・米沢・永田・山崎) を中心におこなった。本報告書では、実践研究の概要のみを紹介する。その他は、論文投稿を予定しており、本報告書には含まない。

(渡邊 巧\*・米沢 崇・永田忠道・山崎 茜)

### II 研究報告－実践研究の概要－

#### 1. 目的

本研究の内、実践研究のパートでは、総合的な学習の時間に関する基礎的知識を取り上げた講義と総合的な学習の時間の実践の観察を組み合わせた授業を試行し、教職志望学生の「総合的な学習の時間」をみる力 (授業を観察し、その特質に気付く力) の変容を明らかにした。とりわけ、「探究的な学習過程」と「考えるための技法」に関する見る力 (学生の気づき) の変容に着目した。

広島大学教育学部初等教育教員養成コースでは、教職課程コアカリキュラム等を受けて、2021 年度より「総合的な学習の時間の指導法」を 1 単位の必修科目として導入することになった。本コースでは、2020 年度以前から 2 単位の必修科目「総合的な学習の構成論」を独自に設定しており、この科目を 1 単位の再編する必要性が生じた。つまり、講義時数の削減にともなって、総合的な学習の時間に関する実践的指導力の基礎を明確にし、教師志望学生に求められる必須の力量を形成するための「総合的な学習の時間の指導法」の開発

が喫緊の課題となった。

「総合的な学習の時間」をみる力に着目する理由は、総合的な学習の時間を授業として捉えると、先行研究（生田ほか，2002；三島，2008）において授業をみる力（授業観察力（三島，2008 など））が教師の実践知や授業力に密接に関連していることが指摘されている。本研究では、教職志望学生の総合的な学習の時間に関する実践的指導力の基礎を育成するためには「総合的な学習の時間」をみる力を育成することが有効であると考えた。

## 2. 方法

本研究は、実践研究の手法を用いており、「総合的な学習の時間の指導法」を開発・実施し、その効果を検証した。研究参加者は、2022年度に広島大学で開講された「総合的な学習の時間の指導法」を履修した大学3年生のうち、研究協力に同意した148名である。2021年度から継続的な調査を進めており、量的・質的に分析・検討をおこなっている。本報告書では、2022年度に収集したデータの概要のみを紹介する。

データの収集に際しては、倫理的な配慮として、調査への協力は任意であり回答の有無が当該授業の成績には一切関係しないこと、集めたデータは成果報告を含む研究活動以外では使用しないことを研究参加者に説明した。広島大学大学院人間社会科学研究科の倫理審査の承認を得たうえで実施した。

「総合的な学習の時間」をみる力とその変容を測定するために、NHK for Schoolの番組「ドスル・コスル」の実践映像（10分）を用いるとともに、MS Formsによる観察シートを用いた。事前測定は「こうする！地域のよさを伝えよう～福岡県久留米市立犬塚小学校3年～」（NHK, 2019）を視聴し、事後測定は「こうする！商店街を救え～神奈川県横浜市立戸部小学校」（NHK, 2018）を視聴した。授業観察シートは、視聴した実践において、①どのようなテーマがみられたか、②どのような学習過程がみられたか、③どのような子どもの資質・能力の育成が目指されていたか、④子どもの思考を促すために、どのような手立てが取られていたか、といった項目について記述するように求めた。各測定の時間は、45分程度であった。この他に、各回の講義（第1回と第8回を除く）では、講義内容及び学んだことを200字程度でまとめさせた。なお、本報告書で紹介する学生のコメントの明らかな誤字・脱字は、修正をおこなった。

## 3. 実践の報告

### （1）講義概要

「総合的な学習の時間の指導法」の目標は、「総合的な学習の時間における横断的・総合的な学習や子供の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な基礎的知識を学習し、総合的な学習の時間の展開に必要な基本的な知識や技能、資質」（米沢・渡邊，2022）を育成することである。本講義は、大学3年次の後期（教育実習後）に配当された小学校の総合的な学習の時間の入門科目である。

2022年度は米沢が主担当として、2023年1月から2月の4日間に全8回の講義をおこなった。講義の参考書は、朝倉淳・永田忠道（2019）である。全8回（全4日間）の具体的な内容は、次の通りである。講義は教室での対面形式を原則にした。受講者数が1クラス150名を超える大講義のため、Covid-19の状況を鑑みて、意見交流や体験活動は最小限に

留めた。

1日目の第1回は、オリエンテーションと事前測定をおこなった。第2回は、総合的な学習の時間の教育的意義に関する講義を行った。文部科学省（2018a, b）の「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」や「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」、および中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」（中央教育審議会，2021）を資料にもちいた。米沢は、Microsoft Teams で資料を提示し、学生に問いかけながら講義を展開した。

総合的な学習の時間の教育的な意義を検討した本講義では、学生たちのコメントには、自己の小学校時代の被教育体験との相違への言及がみられた。例えば、次のコメントがある。

自分が小学校に通っていた時に受講していた総合的な学習の時間は、何を学ぶ時間であるのかが分かりづらく、他教科の補修のようなことをしたり、前時までで終わらなかった児童が図工や作文を終わらせようと取り組んでいる間、他の児童は読書をする時間になっていたような記憶があった  
(略) (学生 A)

一事例ではあるが、総合的な学習の時間の運用に学校ごとに差異が生じており、その経験を通して、学生は科目へのイメージを形成していると推察できる。この他に、学生 B は総合的な学習の時間とは「埋め合わせ的な、何でも屋さん」、学生 C は「サブ的な存在」であり「何か課題について調べてまとめるだけのほかの授業ほど頭を使わない時間」と記述している。そのうえで、学生 C は、1日目の講義を通して「ねらいを持って授業をつくり、子どもが自ら探究したい、課題を解決したいという思いをもてるような授業にすること」の必要性に気づき、それをコメントで指摘している。

本講義の学生のコメントには、「探究」や「プロセス」という表現が頻出している。例えば、下記のような記述がある。

(略) 総合的な学習の時間で目指している探究的な見方・考え方がでている場面を見ることができたり、学習プロセスがまわっている様子を見ることができたりしたなど思いました。実際に、活動を通して子ども自身が見ていた角度とはまた別の新たな角度に気づいたり、子ども自身が思っていたことと現実のズレに自然に気づく形になっており、教師の押しつけで学んでいくのではなくて子どもが自ら主体的に学んでいく中での問いを持ち続けているということがわかりました。このように、子どもの問いを自然と生み出せるような指導が求められているんだなと感じました。(学生 D)

また、「大きな課題を、自分事として考えるために情報を集めて分析し、課題をブラッシュアップしていく過程が印象的だった」(学生 E) という記述もあった。総合的な学習の時間では、探究の過程において、子どもと教師が、問いを再構築し続け、学習を作り上げていくという特質に気付いている。

2日目の第3回は、総合的な学習の時間の目標に関する講義をおこない、実践映像と実践の学習指導案を用いた授業観察、受講生同士の意見交換をした。第4回は、総合的な学習の時間の学習の在り方、はぐくむ資質能力に関する講義、授業観察、意見交換を行った。

この回で探究的な学習過程について特に取り上げている。学生 F は、視聴した映像について、「調べていくことで一つのテーマについてより深い疑問を持つようになっており、そのことがまさに「探究」をしている」と述べ、「子ども、学校だけでは限界がありいかに地域の人やモノと関わっていくかも重要である」と指摘している。

学生たちは、探究における「問い」に注目を向けるとともに、他教科や外部人材との連携も含む教育課程の編成に言及していた。また、授業実践をおこなううえでの教師にも求められる資質・能力を指摘する記述もあった。

学習指導要領の文言をそのまま持ってくるのではなく、その時間における子どもの資質・能力の育ちを教師が具体的なイメージとしてもっておくことが、よりよい授業実践を行う上では重要なのではないかと考えました。(学生 G)

3日目の第5回・第6回は、各学校において定める目標及び内容、内容の取扱い、指導計画の作成に関する講義、授業観察、意見交換をおこなった。指導計画の作成は、地方自治体の教育委員会による資料を学生に読解・分析させた。この回で考えるための技法について特に取り上げており、思考ツールや ICT の活用などへの言及が多くみられた。

4日目の第7回は評価に関する講義、授業観察、意見交換をおこなった。評価に関しては、国立教育政策研究所・教育課程研究センター（2020）に掲載された子どもの学習状況等を資料として、学生とワークショップの形式でおこなった。評価に関して、学生 H は「具体的に児童が学んだことや新たな考えや意見を持つに至ったプロセスを見取ること」の必要性に言及している。ペーパーテスト等の点数による評価とは異なる作文などを用いた評価への難しさも記述された。また、下記の記述もみられた。

総合の評価は、単元を通して子ども一人一人の内面の変容を評価しなければならない点が非常に難しいと感じた。子どもたちの書いた文章から評価を書く演習では、自分の考えや思いを上手く言語化できない子どももいるだろうなと思いました。そのため子どもの課題に取り組む様子や発言など、子どもの学びの成果を多面的に捉える必要があると思いました。子どもの学びが多面的で探究的であるからこそ、評価が複雑になってくると思うので、指導計画の段階で育成を目指す資質能力と対応する評価基準を明確にしておくことが大切だと学びました。(学生 I)

第6回までは講義と映像視聴および意見交流を中心にしていたが、第7回では学習評価を学生が体験するワークショップがおこなわれた。これによって、学生たちは自らの被教育体験で形成してきた評価へのイメージを揺さぶられると同時に、それをおこなうことの困難性が言及されていた。第8回は、まとめと事後測定を行った。

全4日間という短期間の講義ではあるが、学生がもつ総合的な学習の時間へのイメージや、授業づくりや実践へのイメージを問い直す機会となっている記述が確認できる。一方で総合的な学習の時間の授業づくりは、講義内容では不十分であり、小学校の教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや標準配当時数を踏まえると、総合的な学習の時間やその基盤となる探究学習の発想について、大学1年次から系統的に教職課程を編成していくことが求められる。

## (2) 学生の「総合的な学習の時間」をみる力の実態

学生の「総合的な学習の時間」の実践をみる力のうち、「学習過程」と「思考を促す手立て」を中心にして、事前測定と事後測定の概要を一部紹介する。量的・質的な分析は別稿に譲る。

事前測定では、総合的な学習の時間の実践を構成している一つ一つの体験活動に注目した記述がみられる。例えば、「玉ねぎ農家の場所を地図に示す」「玉ねぎのことを調べる」などである。学生たちは、小学校2年生の生活科や3年生の社会科との関係性に言及している。一方で事後測定では、事前測定では体験活動の順序を記述していた学生たちの多くが、「探究プロセス」という表現を用いて、学習過程を整理している。学生Jは、「探究的な学習のプロセスが循環しながら螺旋状に学習が進んでいた」とまとめている。また、事前測定では生活科や社会科といった扱う教材（地域素材など）に親和性がある教科への言及が中心であったが、事後測定では国語科のインタビューの技法などにも言及されている。詳細な分析は、本報告書には記載できないが、学生の総合的な学習の時間をみる力の質的な高まりが確認できた。一方で、文部科学省（2018b）の探究のプロセスを固定的に捉えられている学生がいる可能性が生じている。他教科等と同様に、教育実習等の具体的な場面で授業実践をおこなう機会の必要性も考えられる。

（米沢 崇\*・渡邊 巧\*）

## Ⅲ 研究の成果と課題

本共同研究プロジェクトは、以下の3点を明らかにした。第1は、小学校の総合的な学習の時間の実践研究をスコوپングレビューすることで、その特質と課題を明らかにした（成果は別稿の論文で報告をおこなう）。第2は、第1の成果を踏まえて、総合的な学習の時間の指導法を開発・実践し、効果の確認をおこなった。その過程で、教師志望学生が有している総合的な学習の時間へのイメージが明らかになった。第3に、学生の総合的な学習の時間をみる力について、2021年度に引き続いて、継続的な実践研究をおこなった。以上のように、教師志望学生のみる力を育成することは、総合的な学習の時間の実践の中から特質（授業構成や教師の学習指導など）を見出し、自律的に実践的指導力を向上していくことに資する。今後の課題としては、学生が有している総合的な学習の時間の被教育体験やイメージを質的・量的に明らかにする必要がある。

広島大学教育学部初等教育教員養成コースの「総合的な学習の時間の指導法」は、大学3年次後期に配当されている。しかしながら、初等中等教育において、探究的な学びの充実が求められている状況を踏まえると、大学1年次から段階的に「探究学習のデザイン」のあり方を理論的かつ探究的に学習することが必要である。このことは、教員養成のみに関わらず、高等教育としても重要な課題と思われる。また、広島大学教育学部には、様々な体験活動や探究活動に関する科目が散在しており、それらの関係性を意識するとともに、関連する大学教員（教師教育者）が連携を図ることが重要である。

（渡邊 巧\*・米沢 崇・永田忠道・山崎 茜）

## 引用文献

- 朝倉淳・永田忠道編著 (2019)『総合的な学習の時間・総合的な探究の時間の新展開』学術図書出版社.
- 生田孝至・林なおみ・高橋喜一郎・風間寛司 (2002)「教育実習生の授業に対する観察者のオン・ゴーイング認知」,『新潟大学教育人間科学紀要(人文・社会科学編)』4, 439-475.
- NHK (2018) NHK for School ドスルコスル「こうする!商店街を救え~神奈川県横浜市立戸部小学校」[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005180269\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180269_00000) (2023年2月13日閲覧)
- NHK (2019) NHK for School ドスルコスル「こうする!地域のよさを伝えよう~福岡県久留米市立犬塚小学校3年~」[https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das\\_id=D0005180372\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005180372_00000) (2023年2月13日閲覧)
- 国立教育政策研究所・教育課程研究センター (2020)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 総合的な学習の時間』東洋館出版社.
- 中央教育審議会 (2021)「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す,個別最適な学びと,協働的な学びの実現~(答申)」[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm) (2023年2月13日閲覧)
- 三島知剛 (2008)「教育実習生の実習前後の授業観察力の変容-授業・教師・子どもイメージの関連による検討-」『教育心理学研究』56, 341-352.
- 文部科学省 (2018a)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社.
- 文部科学省 (2018b)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社.
- 米沢崇・渡邊巧 (2022)「広島大学シラバス 2022年度 総合的な学習の時間の指導法」[https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2022\\_03\\_CC111006.html](https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/syllabusHtml/2022_03_CC111006.html) (2023年2月14日閲覧)